

学校だより — 令和6年6月 —



やなせ

所沢市立柳瀬中学校 校長 猪口 茂

学校教育目標

- 3つのKを達成しよう
- 活躍しよう
- 基礎・基本をしっかり身に付けよう
- 健康な心と体を育てよう

体育祭の活躍。その陰に…。

新学期が始まって約2か月。多くの人々が新しいクラスに馴染み、それぞれのクラスのカラーが出始めました。そうした時期に行われる体育祭には、大縄跳び、全員リレー、綱引きなどクラスの皆で力を合わせる競技が多くあり、そうした競技の練習を通してクラスの仲は一層深まりました。

今回は特に大縄跳びの取り組みについて書きます。大縄跳びは練習を重ねただけあり、体育祭当日ハイレベルな競技が繰り広げられました。回数が増えると、跳ぶ人達の足はパンパンです。回し手も皆が跳びやすくするために、腰をかかめて地面の低い所を通そうと必死でした。跳び続けることの大変さがわかるので、女子が跳んでいる時に男子が回数を数えたり、男子が跳んでいる時には女子が応援したりと積極的な声掛けが行われました。

しかし、全てのクラスが順調に当日を迎えられたわけではなく、それまでにはいくつものドラマもありました。

大縄跳びに取り組み始めたばかりの頃の学年練習でのことです。他のクラスの男女がそれぞれ20回、30回と記録を出す中、男子が1回しか跳べなかったクラスがありました。2回目の練習会でも跳べたのは6回。そうした状況が続いたので、私は子供達の気持ちの糸が切れて、なげやりにならなければいけなくてとひそかに心配していました。しかし、その後そのクラスは昼休みの自主練習を行い、体育祭当日はなんと他のクラスを押さえていました。

また、練習を重ねても思うように跳べず、「真剣にやれよ」など、とげとげしい雰囲気になってしまったクラスもありました。そんな日に、クラスの皆へどう声かけようと悩んでいる体育委員さんの姿が見られました。しかし、生徒同士で互いに働きかけながら更に練習を重ねると、「早く気持ちを切り替えよう」「次の準備を早くしよう」といった声掛けが始め、それとともにクラスの雰囲気も前向きになりました。跳んだ回数が増えると回数を数える声も自然に大きくなっていました。

うまくいき始めると、多少の失敗があっても何をやってもうまくいくから不思議です。それは、それまでのなかなかうまくいかなくて苦しかった時期を乗り越えたからこそのご褒美です。苦しい時にどう振る舞うのか。もうダメだと逃げるのか、どうせ無理だとあきらめるのか。ごまかすのか。それとも、なかなかうまくいかなくても最後まで立ち向かうのか。そのクラスらしさが形作られるのは、そんな時です。

かんなん なんじ
艱難 汝を玉とす という言葉があります。なかなかうまくいかない苦しみ、そして、それを乗り越えようとする努力が人を成長させるというような意味です。

人生は、映画やテレビのドラマではないので、努力したから、苦労したから、必ずうまくいくとは限りません。ただ、失敗しても、苦労しても、「今、自分達は何者なのか試されているのだ」そんな気持ちで、仲間同士声をかけあいながら、クラス一丸となって立ち向かう姿を、また見られたらと楽しみにしています。

教科書展示会が開催されます ～来年度から使用する新しい教科書の展示会です。ぜひご覧ください～

○日時 令和6年6月14日（金）～6月27日（木）

平日 10時～18時（12:30～13:30は閉館） 土日 10時～12時30分

○場所 所沢市立教育センター セミナーホール